

二、この題材でねらうもの

ここではボタンつけて学習した製作の基礎技能(糸、布、用具の扱い方、玉結び、玉どめ)をじゅうぶん生かし、自分の手でくふうしながら生活に役立つ小物を作ることができるようになる。この学習を通して、被服製作の基礎としての裁断の仕方、縫い合わせ方を中心に、返し縫い、かがり縫い、一針縫いなどができるようにし、生活に必要な物を進んでくふうして作っていく能力を養っていく。

更に、物を作る喜び、使う喜びを体験させ、製作学習の充実感を実感してもらっていききたいと考える。

三、児童の実態

⊗ 小物を作った経験

ある：男3 女14 (児童数37)

ない：男18 女2

⊗ 児童の教材への関心

早く作りたくてしようがない。おもしろそうだ。わくわくする。今すぐにも縫いたい。うまくできるかどうか心配だなど、児童は小物作りに大きな期待をもって臨んだ。

四、計画

○ 計画をたてる……一時間

○ 製作とまとめ……三時間

「生活に役立つ小物を作ろう」という課題により、表2のような計画を立てた。

次に、計画用紙にでき上がり図、展開図を書き、更に展開図を方眼紙に書

き、更に切って組み立て縫合するとこを確かめたり修正したりして型紙作り、必要な布の大きさを決めた。

表2 児童の計画した小物入れ

計画したもの	男	女	計(名)
さいふ	9	4	13
小物入れ	4	2	6
メモ帳入れ	4	1	5
鉛筆入れ	1	3	4
めがね入れ	1	0	1
はがき入れ	1	1	2
ティッシュペーパー入れ	0	1	1
はさみ入れ	0	1	1
プレゼント	1	1	2
くし入れ	0	1	1
おまもり袋	0	1	1

五、縫い方

○ じょうずに縫うには……美しく縫うには……ほつれないようにするために……を児童とともに考え、練習布で返し縫い、かがり縫い、糸こきなど基礎練習をしてから実物を縫いあげた。

六、児童の実践記録から(表3参照)

「父へのプレゼント」 磯辺 明子

○ 作る理由

今月は父の誕生日なので、かぎやはんこを入れる小さい袋を作ってプレゼントする。

○ 作った感想

自分で作ったわりにはよくできたのでとてもうれしい。友達にもほめられてうれしかった。また作ってみたい。おもしろかった。——略——

○ 使ってみての感想

父にあげたら予想していなかったらしく非常に喜んでくれた。うれしかった。かばんの中にだいにしまってた。母にも作ってあげたい。——略——

以上、実践例は紙面の関係で一名になつてしまったが、全員の児童がそれぞれ意欲をもって作りあげた。

表3 実践記録

製作するもの	小物入れ(父へのプレゼント)	氏名	磯辺 明子	
(形、大きさ、縫い方)				
月	日	めあて	自己評価	感想
6月	17日	布を切ってポケットを平縫いで縫いつける。	A B C	思うよりできてうれしかった。手に刺さってしまった。
6月	19日	縫い目を直し縫い直し、飾りをつける。		「早くできたね」と友達にほめられてうれしかった。良かった。
6月	23日	よさを仕上げて完成		仕上げたとき、うれしかった。うまくできた。

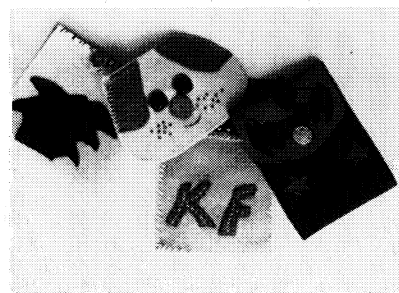
七、まとめ

子供たちと考えながらの歩みで、不安もあったが、新しい題材なので新鮮で開拓に似た楽しさがあった。特に子供たち一人一人が真剣に喜びをもって取り組んでくれたことは、この上なくうれしい。これは、

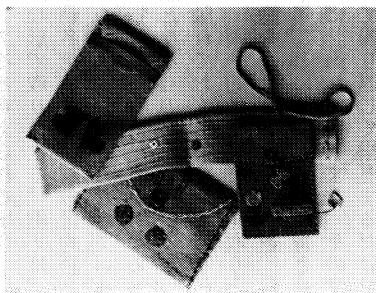
○ 題材が子供によくあっていたこと
○ 初めて取り組んだ子供に適度の量であったこと。

○ 製作経験が少なかつたことと、前題材で針、布に慣れ、何かを作りたいと意欲が高揚していたこと。

○ 教師の取り組みも前向きであった。



児童の作品



児童の作品

などあげられる。反省としては、○子供たちにまかせっぱなしでなく基礎をしっかりと教える。○布はほつれるとか、ずれるなどの感じがわかるようにフェルトでない方が望ましいのではないか。○自由に製作させるのも一つであるが、鉛筆入れとか、はさみカバーのように題材を決めて学習するのも一つの方法であろう。